

令和4年度 市川市市民活動団体事業補助金申請（三次募集） 審査事業一覧表

[illegible]

団体名	委員名	質疑一覧	団体からの回答
サンシャインクラブ	榎戸委員	スタッフの保険料は今回は不要ですか？	スタッフの保険は、必要です。入力した場所がちがっていました。修正ファイルを添付いたします。
	佐々木委員	冬の事業に参加した人が夏の事業に継続して参加するようになっているのでしょうか。	本人が希望すれば、継続参加が可能であり、参加してもらえるように指導、協力依頼をしています。
	佐々木委員	冬の事業で人間関係を構築し、夏の事業につなげるとあります。単発でしか参加できないとしても子供達の成長が感じられるプログラムになっているのでしょうか。効果はどのように検証するのでしょうか。	冬のキャンプであっても、自然体験を仲間と実践し、十分に成長が見込める内容となっていると考えております。人の成長は、数値化できるものではありませんが、仲間やスタッフと協力してキャンプを成し遂げることや自分より小さい子どもたちの面倒を見る体験により、短いキャンプ期間であってもできることが増え、保護者から家の手伝いやコミュニケーション力が成長したというお話をいただくことから成果があった（検証されている）と思います。また、夏のキャンプ以外の行事に参加することで、成長を確認することができます。
	清水委員	未成年の参加者同士の宿泊交流が主となる活動において、大人の複数のスタッフの目が届かない状況がありますか。ある場合、十分な安全確保やトラブル発生時に安心して報告できる環境が用意されていますか。 （子ども達の自主性を育むために大人の干渉がない場は大切である一方、近年NPOの諸活動では特に女性や子ども等の脆弱性の高い関係者に対するリスクの防止・対応を充実させようという意識も高まっています。組織立った仕組みをすぐに整備することは難しいものと理解していますが、安全確保やリスク対応へのお考えや予定などをお聞かせいただければと思います）	冬のキャンプだけでなく、全ての事業、場面において、成人のスタッフが複数名で対応しています。また、スタッフには事業計画を理解するために打ち合わせや下見を実施し情報共有や事故防止に努めています。また、日本キャンプ協会や教員、福祉施設の職員など、人権に対する見識や危険に対する対策方法を身につけている方々に協力していただき、社会の状況に応じた活動を展開しています。これから、実績だけでなくさまざまな意見や情報を取得しながら対策していきたいと考えています。
	柳澤委員	団体の活動目的・外部講師への依頼の部分が未記入のため、記入（回答）をお願いします。	自然体験を実施することで、一人ひとりの存在がかけがえのないものと認識し、こどもの居場所を提供する。そこでは、それぞれのこどもが自分の力を発揮し認められる場所になる。 外部講師の依頼はありません。
	大西委員	保険料についての質問です。どんな内容の保険か教えてください。また、大人については記載がありませんでしたが、どうなっているのでしょうか。	スポーツ安全保険に加入しています。大人については、ボランティア保険、または、スポーツ安全保険、日本キャンプ協会の指導者賠償責任保険に加入しています。
	石原委員	(保険料について) 雪山での野外体験における参加者の傷害発生に対応した保険を付保しているものと推察しますが、第三者への損害賠償も付保されているのでしょうか。	スポーツ安全保険は、損害保険、損害積年保険、突然死葬祭費用保険の内容となっています。日本キャンプ協会の保険は、損害賠償積年保険となっています。
	石原委員	（常備薬）その他の項目が前回に比べ、大幅に減額されていますが、資材・備品日(費)は前回のものを使用するということでしょうか。また、常備薬は消耗品計上として補助金対象となるのではないのでしょうか。	これまでのものも利用し、また事業規模が小さいこともあり減額になっています。常備薬は、補助対象外と認識していました。今回は対象外として申請いたします。
	小野委員	文房具費、5000円の内訳を教えてください。	マジック 500円×2=1000円 ガムテープ 300円×2=600円 模造紙 500円 セロファンテープ 400円×3=1200円 ビニール袋 100円×5=500円 コピー費 40円×30枚=1200円
	小野委員	保護者から参加費を徴収されるので、2人分の保険料は計上可能と思いますので、検討願います。	上記のスタッフの保険に2名分も含めました。
	鈴木委員	収支予算書の参加費収入が前年度の22,000円から今年度10,000円（保護者分を除く）に変更されています。事業内容の変更に伴うものと思いますが、今回の金額は、どのような考え方で積算されていますか。	今回は、国立の施設を検討しており、民間の宿泊施設に比較してコストがかからない設計になっています。
	意見一覧		
	清水委員	親子間、異年齢の子ども達のコミュニケーションを深めるすばらしい活動だと感じます。実績も経験も深い団体さんとお見受けしましたので、活動の安全・安心をより高めるためのご参考として、以下の資料を共有できればと思います。子ども・若者を対象に含む活動を行う団体や学校で近年取り入れられ始めている「セーフガーディング」の基礎資料です。現下感じられるリスクの有無に関わらず、団体の活動を守りながら質を高めていくために役立つ内容ですので、よろしければご参照ください。 ■「子どもと若者のセーフガーディング最低基準のためのガイド」 https://www.worldvision.jp/news/item_img/works/20200317safegurduring.pdf ■「子どものセーフガーディングに関する申し立ての管理と対応」 https://www.savechildren.or.jp/about_sc/pdf/KCS_GUIDANCE_ManagementCSAllegations_JPN-2016_2020.pdf	
	柳澤委員	すでに、夏の事業開催では、実績のある団体のようですが、保護者が同伴しない1泊の事業計画ですので、室内での活動になるため、コロナ対応についてもう少し具体的な対応を示してください。	
	鈴木委員	業内容・実施時期の変更については、従来から実施の事業とその目的に変わらないので、問題ないと考えます。	
	榎戸委員	参加の資格について、主として美術部等に所属している高校生とし、誰でも参加可能、とありますが、「高校生であれば特に高校の美術部等に所属していなくても参加可能」ということでしょうか？やや分かりにくいので表現を整理していただくと良いと思います。	お尋ねのこと仰せのとおりです。美術部に属していなくとも参加可能です。
	榎戸委員	・チラシの制作等は、高校生に依頼してはいかがでしょうか（コンテストなどで）？	当初、お尋ねの通り高校生にてチラシやポスターの作成を検討しておりましたが、作品制作に時間がかかなり必要であり彼ではポスターやチラシまで手が回らないということに加え、ご協賛社様のロゴ掲出をチラシやポスターに入れるということがご協賛を頂戴する条件の一つということもあります。例えば、今回、市川市教育委員会のご後援を頂いていますが市川市のロゴを使用するに当たり、所管の窓口を経由して市長部局の企画部企画課というところへ確認の必要があることに加え、企業ロゴ使用に関しては厳格な使用基準があり、それらを高校生に理解していただくことは時間的な制約と、まだ社会経験のない彼らにとっては荷が勝ちすぎると合議の上判断し、今回はプロに依頼をすることになりました。然しながら、仰せのことは当初より考えていたことでもあり、次回以降、やり方を含めて参加者と議論したいと考えています。
	佐々木委員	「現代アートとしても成立できるように展示空間を含めてインスタレーションとなる作品とできるよう工夫する」の部分の意味がよくわからないのですが、単なる作品発表ではない発表の場を設けるのは、職業として画家やイラストレーター、作家のような体験を進学を控えた子供たちに体験させるといったようなことですか。	お尋ねのこと、結果としてできたらいいなという希望の部分もございます。というのは美術体験というのは展示スペースだけで完結するものではなく、展示を見終わったあとの帰り道から新しい視点を持てるという喜びや考えがあるからです。また、今の現代アートの文脈では作品だけでなくそれらが展示される空間を含めて作品とされる、という考え方もございます。そういう意味でいうと展示環境、来場者、その日の天候による光の加減までを含めて作品であるということからインスタレーションという言葉を用いました。 併せて「単なる作品発表ではない発表の場を設けるのは、職業として画家やイラストレーター、作家のような体験を進学を控えた子供たちに体験させるというようなことですか。」というお尋ねですが、芸術を自己表現、自己との対話という側面から考えた時、年齢や職業ということを制約の一つとするのはあまり好ましくない気がしています。また、進学を控えてというご心配ですが、会期を12月というしたのは高校三年生にとっては一旦、受験というものが一段落する（AO入試、指定校、公募推薦）時期ということで、今回の核となる展示参加者からの希望で開催時期として決定した次第です。

ふくろう画廊	佐々木委員	高校3年生はとても忙しいですし、高校1〜2年の方がのびのびと企画にかかわれると思われませんが、いかがでしょうか。	お尋ねのこと仰せのとおりだと思います。ただ、今回核となっているメンバーがどうしても上級生になってしまうのは年次という社会制度がある以上しかたなく思っています。上級生はリーダーシップを持って下級生に指導していく立ち場でもありますので。展示の参加者は高校三年生に限らず高校一年生や二年生も参加すると生徒からは聞いています。また、わたし、田邊の立ち位置ですが、わたしがリーダーとなって進めているというより、参加する高校生たちの意見、希望を最大限尊重し取り組んでいます。わたしの実務的な係としては事務手続きやご協賛を募るなどの渉外が主たる任務となっています。
	柳澤委員	折角の高校生を対象とした事業ですので、昴高校や、北部の高校に限らず、市川は私立高校も多いので、市川市にある多くの高校美術部に呼びかけていただければと思います。 そのため、事業内容に依頼予定高校を示していただければと考えますが、スケジュール的にはすでに終了した事です。	ご尤もだと思います。本事業の端緒として、画廊で普段行っている社会福祉協議会 のてるぼサロンの参加者の中に高校で美術部に所属をしている方がいました。その方の発案から本事業は始まったと言ってよろしいかと思います。そうすると、その方の通っている高校の美術部メンバー、彼らの人脈、人間関係資本から参加者が拡がり始めました。なのでどうしても当初発案の方は昴高校へ通っていますので、少しずつ広げていっても市内北部の縁故資本のある人達に限られてしまうというのは人付き合いという社会性の上で否めないものだと感じています。また、本補助金 のことを知り、申請をしてみようと思ったのが第三次申請の締め切り間際ということあり、事前の募集告知ということにリソースを割けなかったという反省もござい ます。次回以降は、年度の当初から本補助金への申請を開始し、事前の募集告知とい うことも念頭に置いて計画を立てられればと思っています。 また、現在、参加依頼をしたと聞いておりますのは、市川東高校、国分高校、昭和学院、市川工業高校とのことです。
	大西委員	とても良い企画だとおもいますが、対象者を市内の学校に通う子供たちとありますが、市内在住の市外の学校に通う子供たちも、対象にいれてはどうでしょうか？限定している理由を教えてください。	お尋ねのことですが、意図的に限定しているわけではなく、本事業企画当初の生徒たちが市内在住で市内の高校に通う生徒だったということに起因いたします。その生徒たちの人間関係資本、人付き合い、交流の観点からたまたま、市内在住で市内の高校に通う生徒が主たる展示参加者となったので、計画書にそのように記載をいたしました。言葉足らずで誤認を招く表現でした。当会としては市内在住で市街の高校に通う生徒の参加ももちろん歓迎です。ただ、そのための事前告知、展示作品数、参加人数の制限もあるため次回以降、反省点として表現や告知について思慮いたします。
	松井委員	年末に開催予定の展示会は、令和3年度事業報告に記載のイベントより大規模になりそうな感じがしますが、開催場所（ふくろう画廊）の規模でコロナ対策や展示スペースで開催かのですか？	令和三度の主たる事業は社会福祉協議会のてるぼサロンでした。このときは緊急事態宣言が発令されていたこともあり、また、感染症に対してワクチンも充分でないという時期（市川市ではとても素早く対応をさせていただいたと記憶しています）から、参加人数を4人までと制限を設けました。場所も画廊の一階である、六畳程度のスペースで換気を十分にし空気清浄機を稼働しての開催でした。今回、展示を行うのは画廊の主たる展示スペースである、二階の十畳程度のギャラリースペースで行います。入場制限を設け、空気清浄機を稼働し感染症対策には十分に留意をして行います。
	松井委員	令和3年度事業報告の他イベント（3回）を見て今回の来場者が何人ほどと考えていますか？	令和三度の主たる事業は社会福祉協議会のてるぼサロンでした。このときは緊急事態宣言が発令されていたこともあり、また、感染症に対してワクチンの摂取も充分でないという時期から、参加人数を4人までと制限を設けておりました。来場者の多くは土日に集中するかと見当をつけております。会期中に土日が8回あり、一日あたり40名、そこにプラスして平日がバラバラと10名程度と推察いたしますと、月曜日を休館日として、480名程度と予測しています。
	松井委員	菅野の会場費用は、おいくらですか？	画廊は商業利用（作家の個展開催）などの際は諸経費込みで一週間（水〜火）10万円（税別）を申し受けています。本事業では団体所有物は予算計上できないことに加えて、展示参加者である高校生に対して経済的負担をさせないということをポリシーとしていますので、予算計上しておりません。
	松井委員	印刷物の配布先が印刷枚数の割に少ないのでは？	2022年9月9日現在のチラシ、ポスター配布先は次のとおりです。 市川市文化会館　チラシ　100部　ポスター　1枚 行徳文化ホールI&I　チラシ　100部　ポスター　1枚 芳澤ガーデンギャラリー　チラシ　100部 木内ギャラリー　チラシ　100部　ポスター　1枚 郭沫若記念館　チラシ　100部 清華園　チラシ　100部 市川市立中央図書館　チラシ　100部　ポスター　1枚 市川市立南口図書館　チラシ　200部　ポスター　1枚 文学ミュージアム　チラシ　100部 市本　チラシ　200部　ポスター　1枚 東美（画材屋）チラシ　100部 京葉ガス　てらす　チラシ　200部　ポスター　1枚 市川商工会議所　チラシ100部　ポスター　1枚 計チラシ　1600部　ポスター　8枚
	松井委員	収入の入場料@300×500人の根拠は？	令和三度の主たる事業は社会福祉協議会のてるぼサロンでした。このときは緊急事態宣言が発令されていたこともあり、また、感染症に対してワクチンの摂取も充分でないという時期から、参加人数を4人までと制限を設けておりました。来場者の多くは土日に集中するかと見当をつけております。会期中に土日が8回あり、一日あたり40名、そこにプラスして平日がバラバラと10名程度と推論しますと、月曜日を休館日として、480名程度と予測しています。 入場料は社会福祉協議会のてるぼサロンの参加費が一人あたり300円〜500円というところから勘案いたしました。コストヴァリューということを鑑みて、平均的な街の美術館が1000円程度、趣旨として本来であれば無料としたいところですが、事業収入ということを考慮するとこのくらいの金額が妥当かと考えています。
	松井委員	消耗品費内のプリンターインク代は何の印刷に使用する為ですか？	プリンターは展示参加者の作品からだけではわからない、制作意図、見どころ、作者の略歴など、二次資料的なパンフレットの作成を生徒にしてもらい、それを印刷するために使用致します。また、補足といたしました土日開催日にはギャラリートークを開催し、対話型で鑑賞者との交流を図ることを検討していますが、それ以外の日に来場された方にも解説の一部としてお配りできるものとして使用致します。いずれにしろ、作家が作品を生み出す努力を伝える術になるものです。
	小野委員	消耗品費75,000円の内訳を教えてください。	文具の使用用途は来場者の方にご記載をしていただく来場ノート、生徒たちの寄せ書き、来場者に絵などを書いていただけるスケッチブック、筆記具などです。 感染症対策予防消耗品（消毒アルコール、予備マスク）、プリンターインク：@5,460x4セット、梱包用ダンボール：@1,820x10セット、スケッチブック：@4,080x3冊、コピック（スケッチブック用ペン72色セット）：15,820等を予定しています。

	小野委員	原稿製作費一式50,000円の内訳を教えてください。	原稿制作費の内訳ですが、グラフィックデザイン（A4チラシ、B1ポスター）、コピー、ベースとなる写真の撮影と使用料など一式となります。
	鈴木委員	事業実施にあたって、多くの生徒が参加できるよう準備することが必要であり、左記申し送り事項の「その他」欄にも、夏休み期間中を利用して参加を呼びかける予定とあります。これについては、実施されていますか、また結果については、団体としてどのように評価されていますか。	本事業策定にあたっては生徒からの発案であり、あくまでも生徒の主体性に任せるというスタンスで行っています。ただ、責任者としての立場から申し上げますと、学校同士の交流の場というのが運動部系と比較すると希薄であることは否めないと感じています。そういう意味では、責任者である私自身が直接学校を回り参加を呼びかけるという動きが本事業継続という観点から必要だと強く感じています、部外者が学校に立ち入ることは防犯の観点からも歓迎されず、今回後援を頂戴した教育委員会の協力を仰いで発展的な行動ができるように働きかけたいと考えています。 また、お尋ねの他校への呼びかけですが、国分高校、市川東高校、昭和学忍、市川工業高校への生徒に対して、展示参加者の生徒から呼びかけをしたと聞いています。 実は企画当初、市内に限らず県内の高校への呼びかけというものも検討し、文科省、文化庁、千葉県教育委員会、千葉県文化振興課への問い合わせをしたのですが、どこも対応が芳しく無く、というのは実績がない、市川市という基礎自治体内で実施というのがその主たる理由でした。そういう意味では、本事業な対してご相談をさせていただいた当初から真摯に向き合っていたいただいた市川市の方には感謝しております。加えて、一事業者として持てるリソースというものには限りがあり、文化芸術振興という側面に対しての理解だけでなく、具体的な助けというものも必要だと感じる次第です。
	意見一覧		
	清水委員	高校生達が楽しみの中で自主性を育むすばらしい活動だと感じました。障害を持つ方々へが鑑賞しやすい配慮も記載されており、実施者の方が包摂的な環境を作りだそうとするご姿勢も、高校生達にとって大きな学びになると思います。 アートへのアクセスをあらゆる人に広げようという社会の動きは、画廊の方にとっては専門分野と承知しておりますので、以下釈迦に説法ではありますが、学びの最中にある高校生達にこうした活動のちょっとした紹介を盛り込むことで予想外の効果が出ることもあるかともいます。以下のHPはご参考ですが、高校生達が多様な市民の方々を迎えるにあたり、事前に関連HP等を少し見ておくだけでも、より実り深い交流ができるのではないかと思います。 ■NPO法人エイブル・アート・ジャパン https://www.ableart.org/index.html ■NHKハートネット「あがるアート」 https://www.nhk.or.jp/heart-net/agaru-art/ ■Tokyo Art Research Lab https://tarl.jp/	
	柳澤委員	今回初めての申請のようですので、今年度は参加高校が少ないかもしれませんが、是非以後も計画いただき、市川市にある高校の美術部の交流が進むことを願っています。	
	柳澤委員	広報のためのHPやSNS関連費の方が、印刷製本より高くなっています。見に来ていただくための広報もちろん大切ですが、参加高校生の記録として、作品集などの製本に十分な費用をかけていただければと思います。	
	石原委員	(事業収入として計上している物販品について) 初回ということもあり、手芸小物が想定されています。補助金審査項目と直接的な関係はありませんが、営利を全面に出さないまでも、将来の資金面での自立が事業の自立的な発展につながるという観点から、事業目的の範囲内で多様な物販の更なるｱﾚﾅを考えて頂きたいと思います。	

事業 番号	団体 NO.	団体 分野	事業 分野	団体名	事業名	事業概要説明	実施時期、方法、場所	前年度指摘事項	事務局所見及び団体確認事項
40	60	6	6	特定非営利活動法人アート・空の会	市川みんなのアート	○事業目的 市民が生きがいの持てる生活ができるように、アートの活動（美術活動）を通じて、自己実現ができるようにする。 ○内容・効果 A展示事業として ①一枚・一品展 ②ハートフル・アート展 ③新年 笑顔展の3事業を行う。 これらの活動を通じて、市民同士の絆を深め、生きる喜びが得られるようにする。 B 作品制作・ワークショップ 障害者の中には、すぐに展示できるような作品が出来るわけではないため、絵画教室やのワークショップを行い展示できるような作品づくりを行う。 特に視覚障害の人たちは作品づくりには苦労するため、時間かけて行う。	10月、12月、1月 法人事務所兼ギャラリー		事務局にて形式審査済。 例年同様の事業内容及び規模であることを確認。 コロナ対策について、ソーシャルディスタンス・消毒・マスク・検温などの基本的な予防対策を実施予定とのことです。
41	65	10	10	平和を見つめる写真展実行委員会	「平和を見つめる写真展」	2015年以來、市川市文化会館（2015～2018年）、アイリンクタウン展望施設（2019年）で開催してきた。本事業の目的は市民に平和維持と希求の意識を喚起し世界の平和という困難な問題について考えるきっかけを提供することであり、その目的を効果的に達成させるために開催会場では国内外に残る戦争遺跡の写真を展示し、(太平洋)戦争体験者の証言ビデオを上映し、会場内で平和講演を行ってきた。 しかし、2020年度、2021年度と、コロナ禍によるイベント自粛や会場閉鎖により、上記イベントの開催を見送らざるを得なかった。そこで、2022年度ではこれまでの主要コンテンツ（写真展示、ビデオ上映、平和講演）をウェブ上で行う。これにより、予算の制約や人員確保の難しさから例年3日間という開催日数の制限を回避し、これまでの「会場来場者」は「頁閲覧者」として時間・時期・回数に制限なく観覧・視聴できることから、感染リスクなく広く多くの市民に提供できる。	2022年10月1日から2023年3月31日まで WEB上「平和を見つめる写真展」と題したホームページにおいて		事務局にて形式審査済。 昨年同様の事業内容及び規模であることを確認。 団体には下記の方法で、市民の参加人数、割合を把握してもらう。 ・Webサイトトップページのページビュー数を当該事業の参加人数として把握すること。 ・Webサイト内に「市内・市外」のチェックボックスを配置し、また閲覧者に対しアンケートへの記入を要請することによって、市川市民の参加を把握すること。
43	75	10	10	認定特定非営利活動法人 市川市ユネスコ	ユネスコ市民公開講座	ユネスコのボランティア活動を広く市民に理解して頂く目的。 ユネスコは国連の教育科学文化の専門機関で、持続可能な社会の実現のために活動をしています。ユネスコ市民公開講座では平和・環境・世界遺産等の演題で専門講師を招きまたワークショップ等で一般市民にユネスコの活動の理解を深めて、市民レベルで持続可能な社会の実現の為に何が出来るかを考えて頂く。	1月か2月の土曜日14:00予定。（抽選結果次第） 男女共同参画センター研修室またはI-Link会議室の予定		事務局にて形式審査済。 例年同様の事業内容及び規模であることを確認。 コロナ対策について、ソーシャルディスタンス・消毒・マスク・検温などの基本的な予防対策を実施予定とのことです。
44	86	10	10	戦争はいやだ！市川市民の会	戦争はいやだ！いのち・人権こそ！	講演・意見交流や映像の提供、または情報発信等々の企画によって、見聞・思考する機会を設けることによって、現実社会に生起する諸課題に主体的になっていける契機の1つとなり、今日の政治状況に対する理解が広がり、深まることを期待します。そして市民社会の中での交流の拡がりも願っております。	年5回程度 講演会 文化会館、教育会館、勤労福祉センター等		事務局にて形式審査済。 例年同様の事業内容及び規模であることを確認。 コロナ対策について、ソーシャルディスタンス・消毒・マスク・検温などの基本的な予防対策を実施予定とのことです。
45	103	13	13	三世代の親睦交流支援の会	子供、子育て世代、高齢者 交流支援事業	・子育て世代、学童、高齢者を対象に親睦・体験・遊び等の場（機会）づくりを行う ・こどもと高齢者との交流親睦の場づくり、おとなたちの親睦交流の場づくり等を通じてお互いの繋がりを促進し、安全なまちづくりを推進及びこどもの健全育成を図る	令和4年11月、12月、令和5年1月 近隣自治会館及び公施設		事務局にて形式審査済。 例年同様の事業内容及び規模であることを確認。 コロナ対策について、ソーシャルディスタンス・消毒・マスク・検温などの基本的な予防対策を実施予定とのことです。